

# オモトープ だより

面瀬小活動報告 No.3 (文責谷山)

2021/03/18

■2019年7月にプレオープンした面瀬小・学校ピオトープ「オモトープ」は、一年以上を経過して徐々に水辺環境が整ってきました。池を覗くと、自然繁殖しているクロメダカが泳ぎ、ドジョウ、タニシが泥に潜っています。その他、ギンヤンマやアキアカネ、イトトンボなどのヤゴも見られます。ミズカマキリやマツモムシ等の昆虫など、多くの生き物が暮らしています。

■斜面から流れてくる湧き水は、11~14℃と一年を通して水温がほぼ一定です。一方池の水温は、厳寒期は4~5℃で、日が差し込むようになった3月は6~8℃ほどになっています。冬場は一日中日が当たらない場所にあるため厚い氷が張っていましたが、湧き水が入っているところは凍っておらず、悠々と泳ぐメダカを見ることができます。気温とともに変化する池の温度と違い、湧き水は生き物にとって冬越しに適した温かな水なのかもしれません。



中谷医工計測技術振興財団  
動画／成果発表会

「奨励賞」受賞

これがオモトープです。いろんな生き物がいます。



宮城県 気仙沼市立面瀬小学校 『学校ピオトープを活用した理科学習の充実』

■理科教育振興の助成金をいただいている「中谷医工計測技術振興財団」へ、1年半ばに学習活動の成果発表動画を送りました。4年生のオモトープ調査隊の4人組がオモトープを紹介し、活動の様子を発表する内容です。7分という時間制限の中で上手くまとめ、楽しく学習観察している様子が伝わってくるものになりました。

■興味をもった子供たちが、毎日朝とお昼ごろに職員室にやって来て、ワイヤレス温度計で湧き水や池の温度を測定し、ノートに記録

していました。また、見つけた生き物を「生き物ニュース」にまとめ、オモトープで起きている事件や発見したことを皆に伝えていました。

■このようにピオトープに親しんで遊んだり、主体的に観察したりする子供たちの姿が、中谷財団の方々から賞賛され「奨励賞」を受賞しました。日経サイエンスの取材を受け3月末発行される号に掲載されます。様々な方々からの評価を受け、子供たちだけでなく教師も関心を高めています。

## 面瀬小・学校ビオトープ・アーカイブ

### 1 拡張工事スタート 12/5

■池の拡張工事は当初から考えていて、ミニ水田を広げながら構想を練っていました。オモトープで遊ぶ子供たちからも「もっと広くなったらうれしいんだけどなあ。」とお願いされることもありました。

■前日も重機で掘削工事をしていただいた、高橋徹前PTA副会長さん(3年紅葉さん父)に相談したところ、都合をつけて再び重機を運んできて作業してもらいました。池の西側にライン取りをしてコンボで掘ってもらいました。掘り上げた土は、花壇前に設ける植樹スペースの盛り土に利用する予定です。

大きな石は、池の縁に残すことにしました。

### 2 水を汲み出しU字溝を設置 12/9~11

■前回同様に、池の底から水がしみ出てきました。おそらく、水を含む「帯水層」で、常にこのレベルに水があるのではないかと考えています。池の水位との差が、湧き水が入って増えた水だとすると、結構な水量が入っていることになります。これまでにあふれたことがないので、一定量以上の水は、底から抜けていくのだと思います。バランスが絶妙な池、まさに「おもせー池」なのでしょう。

■12月中旬になり次第に気温が低下してきました。まだ土を掘れる暖かい日を選んで作業を進めました。深みの水をバケツでかいて、大きめの石やブロックなどを投入して土台を固め、U字溝で魚の冬越し用の深みをつくりました。この深み以外は、土や石を入れて最終的には15cm~20cm程度の浅い池、湿地にします。

■昨年度の経験を活かして、手際よく作業が進みました。U字溝の冬越し用の深みを大きめの石で固定して、埋め戻しました。土を突き固めて観察の時の足場用のU字溝をセットするところまでやりたかったのですが、暖かい日はここまで。厳しい寒さのため中断。



### 3 池の拡張工事の再開 3月下旬から

■冬の間池には日が差し込まないので、厚い氷が張り、土も凍っています。寒い時期は人力での作業は進みません。春になり、氷がとけたところで少しずつ進めていく予定です。

■湧き水が入る部分の池の水面は、温度が高いため氷が張っていません。2月の中頃、いつもプールでくつろいでいるカルガモが飛んできて、オモトープの池や畑にいました。草やタニシなどを餌にしているのでしょうか？歩いて帰るカルガモ。興味が湧いてきます。

# 今後のオモトープについて

■現在、オモトープの池「おもせー池」を拡張していますが、下に示したように、2019年のピオトープに関する構想に沿って順調に進めているところです。拡張工事が無事終了した後も、たくさんの子供たちが利用するので、その都度補修したり、伸びすぎた草やガマの穂を刈ったりすることが必要です。時間とともに変化する池周辺の環境を楽しみながら、子供たちと一緒に、息の長い活動をしていくこととなります。

## 〈ピオトープ基本構想〉

- 崖下の湧き水や自然を生かす
- 安全で丈夫なものにする
- PTAや地域の方々の協力で進める
- 基本は深さ15~20cmの湿地
- 魚の越冬が可能な60~80cmの深み



## 〈ピオトープ拡張構想〉

- 西側に池を拡張する
- 水が行き来するようにする
- 済畑の土を肥やす
- 済畑の石を除去する
- 済剪定した枝等の木材置き場を新設する



■面瀬小学校では、草刈りで出た草を積んで堆肥をつくり花壇や畑にすき込んだり、学校農園を新たに開墾して体験活動を充実させたりしています。また、プール内の日よけに植樹をしたり、南側斜面に桜を移植したりもしています。池近くの花壇前には、樹木を植える計画があります。自然の循環の中で緑化活動や植樹を推進していることが認められ、令和2年度全日本学校関係緑化コンクール・学校環境緑化の部で「入選」となりました。表彰は5月になるそうですが、これも子供たちや職員の励みになります。

■令和2年度全日本学校関係緑化コンクールの中央審査会において、各都道府県から推薦された小学校・中学校・高等学校の優秀校及び協力者を部門別に審査した結果、別紙のとおり、農林水産大臣賞3校（学校林等活動の部特選）、文部科学大臣賞3校（学校環境緑化の部特選）、以下各賞の表彰校及び学校関係緑化に対する協力賞を選定し表彰することとしました。

- |                       |         |                                    |
|-----------------------|---------|------------------------------------|
| 学校環境緑化の部              | 小学校（5校） |                                    |
| 特選（文部科学大臣賞・日本放送協会会長賞） | 1校      | 熊本県 熊本市立西原小学校                      |
| 準特選（国土緑化推進機構会長賞）      | 2校      | 栃木県 宇都宮市立岡本西小学校<br>鹿児島県 鹿児島市立山下小学校 |
| 入選（国土緑化推進機構理事長賞）      | 2校      | 宮城県 気仙沼市立面瀬小学校<br>福島県 会津若松市立川南小学校  |

なお、表彰式は、新型コロナウイルス感染症対策に鑑み、代表の学校のみ5月30日に島根県で開催される第71回全国植樹祭の会場にご招待して行うこととし、代表以外については、ご推薦いただいた県と調整の上、表彰状等を伝達・送付する予定です。

※（公社）国土緑化推進機構プレスリリースから

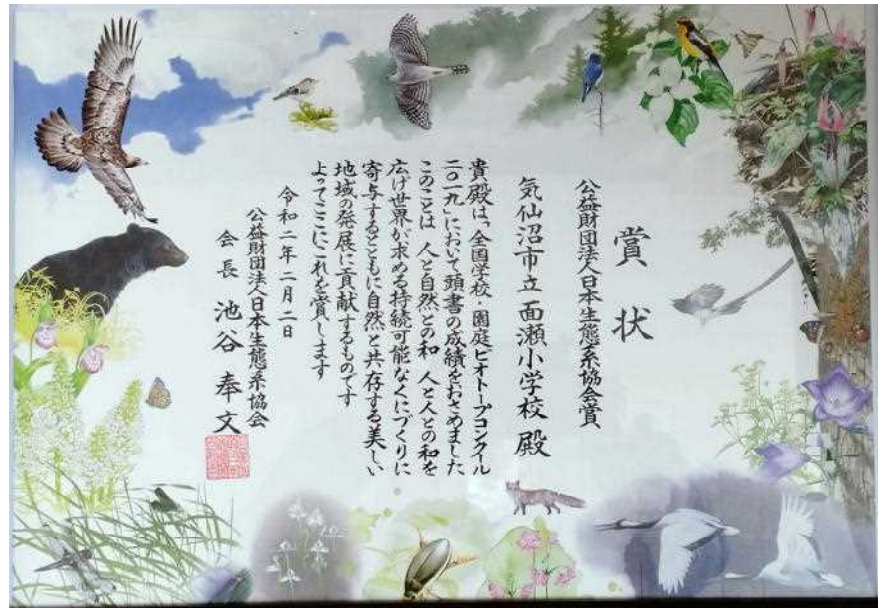
# 全国学校・園庭ビオトープコンクール 2019 「日本生態系協会賞」表彰式、発表大会の報告

●コロナ対応で報告の機会を逸してしまいました。改めてご報告いたします。

■2019年の7月にプレオープンしたばかりでしたが、面瀬小のユニークな池やその活用の仕方、可能性が評価されました。

- ① 湧き水を利用している。
- ② 多様な生き物がすんでいる。
- ③ PTA 地域の協力で進めている
- ④ 専門家の助言で進めている。
- ⑤ 子どもたちの活動が積極的。

■その後、新型コロナウイルス感染拡大のために、ビオトープ管理士の資格を持った方々の直接指導の機会が残念ながら無くなってしまいました。今後は是非この助言指導の機会を活かしたいと思っています。



## 2020年2月2日 表彰式、実践発表

東京：国立オリンピック記念青少年総合センター

### 秋篠宮皇嗣殿下のおことば

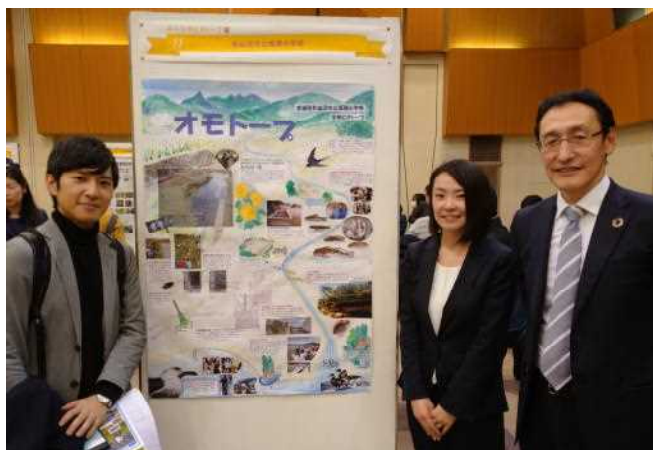


■ビオトープコンクール2019の表彰式と実践事例発表に職員の代表が参加してきました。

■「子どもたちの自然体験の減少が課題となっている中、こうした場所をつくることを通して様々な人が出会い、保育、教育、地域作りの拠点ができていくことは大変素晴らしい」…開会行事は、秋篠宮皇嗣殿下(当時)からのおことばをいただいて始まりました。

■文部科学大臣賞,環境大臣賞,国土交通大臣賞,ドイツ大使館賞,日本生態系協会会長賞の上位5校の表彰, 事例発表に続いて面瀬小学校の表彰もステージ上で行われました。

■ビオトープの整備と活用の実践事例をまとめる良い機会になり、代表教師が発表や他地域の学校や団体の方々と交流をする貴重な機会となりました。今後の整備と活用のヒントを得てきました。



■理科の研修でお世話になっているお茶の水女子大学の里浩彰先生も発表に駆けつけてくれました。

